

足立区少年団体連合協議会

# 少連協ニュース

○発行/足立区少年団体連合協議会 〒120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所青少年課 青少年事業係 TEL 03-3880-5275  
○発行人/四宮淳司 ○編集/調査広報部 川田 大関 鈴木(春) 辻村 岩井 熊澤 仁科 常田



▲御殿場キャンプ ～全員集合！～

足立区の  
子どもたちの  
真の成長と幸福



足立区少年団体連合協議会 会長 四宮 淳司

令和5年度総会において会長に就任させて頂いていただきました。足立区の子どもたちが少しでも元気になるように最善を尽くしてまいりますので、皆様方のご支援ご協力を宜しくお願い致します。

私の育成者としての原点は、子どものころの様々な体験活動にあります。特に、昭和40年代高度成長期、子ども会行事で参加したサマーランド、船橋ヘルスセンター潮干狩り、町内大運動会など、今でも楽しかったことを覚えています。形は変わっても子どもたちに楽しい思い出や、体験活動の場をたくさん提供したい。そんなおもいで単位子ども会、地区少年団体協議会(地少協)の会長をつとめて参りました。

子どもたちにとって新型コロナウイルス感染症によるブランクは大きな痛手となりましたが、行政のご理解もあり、今年度はジュニアリーダー研修会、宿泊キャンプ、ドッジビー大会など異年齢交流の場を通じた素晴らしい活動が展開できます。少連協の皆様と力を合わせて「足立区の子どもたちの真の成長と幸福」のために頑張つて参ります。

目次

○会長あいさつ……………	1	○ジュニアリーダー研修会……………	5
○通常総会開催・令和5年度役員・青少年課長あいさつ……………	2	○夏季ジュニアリーダー宿泊(キャンプ)研修会……………	6
○退任・新任あいさつ……………	3	○ジュニアリーダーたちの感想……………	7
○ソフトボール大会優勝、育成者セミナー……………	4	○地少協活動……………	8



### 退任あいさつ

前会長 山本 輝夫

この度、令和5年度の少連協定時総会にて会長退任の承認を戴きました。

リーダー四宮淳司新会長のもとに新たな少連協執行部の誕生です。三年越しの思いが目の当たりになり、少連協の希望が一層輝きを増した瞬間です。立ち会えましたことに大きな喜びを感じております。

不肖、会長在任中につきましては足立区長、教育長、子ども家庭部長、青少年課長、関係各位の計り知れないご指導とご協力を戴きました。心から感謝と御礼を申し上げます。

また、足立区をこよなく愛し、子どもたちをわが子・孫のように慈しむ、少連協の皆様を、「崇高で志の高い誇れる同志」と常々感じ入っております。

肝に銘じてきました「子どもを一番に、真ん中に考える」少連協のミッションは創立当初から不易です。成人の我々自身もまた、お互いを高め合う伝統と革新を踏まえた組織で、全国に誇る少連協のビジョンです。

振り返りますと1999年より2023年にわたり、育成部長、調査広報部長、副会長、会長と携わり24年間、少連協で多くを学びました。田代正明会長、野辺陽子会長の薫陶を受け、会長職を全うできました。偏に皆様方のおかげでございませう。ご指導、ご支援を戴きました同志の副会長・部長・役員・



▲長い間ありがとうございました

常任理事・地少協・スポーツ少年団・育成会・子供会・関係各位の皆様にご感謝と御礼を申し上げます。

結びに、四宮淳司会長のものと、各地少協・スポーツ少年団・少連協組織の更なる発展をご祈念申し上げ、退任の挨拶と致します。

前会計 下島 泰則  
5月13日の総会にて役員を退任させて頂く事になりました。

在任中は主に安全共済会、Aフェスタそして創立50周年事業の会計担当として皆様にご理解、ご協力を得て活動できました事に感謝申し上げます。

安全共済会ではコロナの影響を受けここ何年かは加入数が半減する状況でこの単位子ども会さんも行事に多大な影響を受けていると感じAフェスタに関しては開催中止が続きました。しかし、創立50周年事業に携われた事は良い思い出となっております。

少連協の益々のご発展をご祈念するとともに、皆様にはこれから地域の活動でまたお目にかかる機会があるかと思っております。どうぞこれからもよろしくお願ひ申し上げます。

前会計監事 岩澤 明美

思い出しますと、30歳代から育成会長、地少協会長と続き、何十年子ども会と携わっていたことでしょうか。その間のことが、走馬灯のように想いが頭をよぎります。

行事の中では、9月15日に10kmの歩け歩け大会を計画し、地域の老人会にお声を掛けました。子どもと同じ位の参加がありました。その行事をテレビ局(テレビ東京)が知り、「すいすいらんど綾瀬」の所で取材を受け、テレビで放映され、また、夕刊にも載りました。毎年、数々の行事を行いながら、その度ごとの反省会をし、そこで出された意見を踏まえ新たな取り組みもしてきました。

地域の皆様をはじめ、大勢の方々からのご協力でこれらの行事をすることができ、大変幸せでした。これからも若い方々のお力で少連協が益々発展されますことを祈念申し上げます。

### 新任あいさつ

会計 西村 秀彦

令和5年度より少連協会計を仰せつかりました。少連協会計については初任で知識も無く右も

左も判らない状態ですが、再任の日高佐和子会計・小沼ちさ子会計にご指導いただきながら業務を覚えていきたいと思っております。

前任の下島泰則会計・中村清代会計には及びませんが、精一杯勤めさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

書記 中川地少協会長 井門 明洋

令和5年度より下島泰則前会長の後任として、中川地少協会長に就任しました井門明洋と申します。

下島前会長並びに歴代会長が育んできました中川地少協の団結力を継承し、また、新型コロナウイルス感染症についても第五類に移行になり三年強の期間殆ど子ども達の行事が開催できていなかったことを踏まえ、今年度から少しずつ以前の様に行事を開催し、子どもたちの笑顔とともに、中川地少協のメンバーと力を併せて、少連協の活動を支えていければと考えております。少連協の皆様、何分右も左もわからぬ新人ですが、力を尽くして頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

調査広報部長 第六地少協会長 川田 和美

今年度より、第六地少協の会長となりました。長年、副会長として活動してまいりましたが、会長となった今、更なる責任の重さを実感しているところですが、今後は、地域の子どもたちが、大人になった時に、子ども時代の楽しかった思い出の一つとなり心に残る行事等を行っていきます。

そして、更に、調査広報部長も拝命いたしました。部一丸となり試行錯誤しながら、より良い紙面作りを目指して、足立区の子どもたち、それを見守る大人たちの情報発信をしていきます。

第四地少協会長 堀越 英行

初めまして、第四地少協の堀越英行と申します。わからないことばかりなので少しずつ慣れていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

# 青少年健全育成団体親善 ソフトボール大会

祝優勝



調査広報部 川田 和美



▲ソフトボール選手のみなさん

## 優勝 おめでとう!



6月4日(日)平野グラウンドにおいて、台風一過の中、足立区の青少年健全育成に関わる9団体が熱い戦いを行いました。

20代から70代にわたる年齢層の選手たちが、それぞれ全力を出しきっている姿に、こんなにも熱い人たちがいるなら、足立区の未来も明るいと感動しました。

そして、その団体の中で、一番熱かったのは、なんと少年団体連合協議会という結果になりました。

優勝おめでとうございます！ 選手、応援の皆さん、お疲れさまでした。

# 育成者セミナー

## 子ども会について

事業研修部 井門 明洋



▲アイスブレイクで笑顔に

令和5年6月25日(日)10時から、竹の塚地域学習センター四階ホールにて開催されました。

主催者の四宮会長の挨拶に始まり、続いて足立区子ども家庭部長の上遠野葉子様の挨拶を頂きました。四宮会長から本日の研修の講演者である前東京都子ども会連合会理事長の齋藤武様の紹介がありました。

今回の講演内容の「子ども会について」の講演を聞き、目からうろこの状態になりました。

何年も地少協活動の中で育成会会長会を開催し、子どもたちに関わる研修事業も数多く開催してきましたが、それは大人たちが決めた内容の研修事業でした。齋藤先生曰く、子ども会は子ども主体の会(子どもが会長で子ども達が運営する会)と言われました。成る程なと感じましたが、中々難しい問題でもあります。



今回の育成者セミナー受講者の感想を何点か紹介いたします。

●子ども会のある意味や子ども会の必要性を知りました。兄弟姉妹が少なくなっている少子化の日本の現状で、子ども会ならではの異年齢とのコミュニケーションの大切さ、子どもはいかにコミュニケーションが大事なのかなどを知りました。子ども達が自らの力でいろいろやるのが大事なんだとわかりました。

●齋藤先生のお話をお聞きし、子ども会・子ども育成会に関する認識が変わりました。家庭では経験できない事を子ども会の活動を通して経験することにより、より成長につながるのだと思いました。とても分かりやすく、為になりました。

●子ども会を盛り上げるため、あの地区、この地区の子ども会の活動や、子ども会の加入率アップのためにどんなことを行っているのかを学びたいので、色々な子ども会に話を聞く会をやって欲しい。

等々いろいろな感想がございました。

それぞれの子ども会(育成会)が開催している行事等を皆さんでディスカッションをする機会があってもまた面白いのかと感じました。

最後に今後とも子ども達の笑顔が見られ、思いやりが育まれるような活動を心がけていきたいと思えます。



▲齋藤武先生による講演

# ジュニアリーダー 研修会

第四地少協 常田 美代



▲巨大新聞ドーム完成

令和5年5月27・28日の2日間に渡り、足立小学校体育館に於いて、ジュニアリーダー研修会が行われました。3回の研修にのべ65人の参加があり、修了者は20人となりました。鹿浜講師、中学生から大学生のチューターの指導の下、いろいろな遊びを体験しました。

初回は恥ずかしくて参加できない子もいましたが、そんな時はチューターが目をかけて自然に仲間に入れるようにしていました。

2回目の研修には新聞紙ドームを作成しました。新聞紙と養生テープを使い、貼り合わせ、それをまた貼り合わせ、どんどん広げて、形を整えて袋型にし、中に空気を送って膨らませ、まるでトンネルのような長くて大きなドームが完成し、中を堪能。そして、一気に解体。作るのは2時間ほどかかりましたが、解体に

は数10秒。作って歓声、壊すときも歓声。子ども達は大興奮でドーム作成は終了しました。協力するとこんなに大きな事ができるんだと実感できて、出会って数時間でもみんな仲間になれたようでした。足立小からの参加者は多かったですが、弥生小からの参加者は少ないので、もっとこの活動を知ってもらい参加して欲しいなと思いました。



▲チューター・カウンセラー活躍！

私はジュニアリーダー研修会の講師、研修生時代を通して様々な経験をしました。そのなかでも宿泊キャンプ、雪上宿泊研修会での経験は自分自身の成長にとって大きなものでした。先輩リーダー達の優しさや頼もしさに触れ、自分の視野を広げるときっかけになりました。また、活動中も楽しそうに企画やレクリエーションを進め、リーダーシップを発揮する姿はとても頼もしく憧れました。仲間と一緒にリーダーとして活動することは、今まで過ごした小学校での生活では得られないものばかりでした。祭りの企画運営、地域のお手伝い、宿泊キャンプ等を協力して成し遂げることは簡単なことば

講師を始めてからは、一人で前に立つことも増え責任感からなのか毎回緊張してしまいましたが、改めて支え合う仲間のありがたさを感じています。それでも活動を続けているのは、会場にいる地域の大人の方々がいつも暖かく見守り支えてくださるからです。妊娠中、出産後もなんとか活動を続けてくれたのはそのお陰でした。とても感謝しています。

今はその大好きな人達と自身の住む足立区の子ども達にジュニアリーダーを知ってもらい経験をしてもらいたいな、と思って活動しています。今後は、頼もしく成長してきた後輩リーダーたちを見守っていきたいです。



▲平田講師と子どもたち

小学生時代にジュニアリーダー研修会に参加したことがきっかけで現在はジュニアリーダー講師

現在はジュニアリーダー講師

ジュニアリーダー講師 平田 藍里

子ども達が体験活動を通して  
生きる力を学べる機会の一事業

夏季ジュニアリーダー  
宿泊（キャンプ）研修会 を実施しました

副会長 大関 英広

令和5年7月15日（土）から17日（月）の二泊三日で富士山の麓に位置する国立中央青少年交流の家（御殿場市）においてキャンプ研修会が実施されました。これは新型コロナウィルスの感染予防のため実施できなかったテント泊を、4年ぶりに行うキャンプ事業となり、今年度は、ジュニアリーダー講習会を修了した小中学生105人が参加しました。



▲キャンプ参加者たちが設営したテント村（一部）



▲中学生リーダー集合、合言葉は「ノバ！」

このキャンプ研修会では、足立区役所や少連協のスタッフは事業の安全管理及び運営・支援にあたり、企画運営・進行は青年・中学生のリーダーが先頭に立って進められました。



▲おいしくできたかな？  
夕食はカレーライス



▲“まきわり”は大人の仕事

初日、東名高速道の渋滞の影響で到着が予定より遅れ、開村式が始まりました。リーダーの「ノバ！」の掛け声に研修生も呼応し、心を一つに行動に移り、昼食の後、リーダーに従いテント設営となりました。その後、いよいよ火おこしとカレーライスづくりを行い、食後は片付け、シャワー浴、班会議を行い就寝となりました。



▲フィールドゲーム説明会を見守る中学生リーダーたち

二日目は、朝の集いの後、朝食づくり、フィールドゲーム（宝探し）を行い、昼食炊き込みご飯・豚汁づくり、フィールドゲーム（追跡ハイク）、クラフトづくりの活動を終え、夕食後にプログラムのクライマックスとも言えるキャンプファイヤーで歌やゲームを楽しみ、班会議の後、寝袋に入りました。キャンプ最終日は、朝の集い、食事、テントの片付け作業を行い、朝食を摂って、キャンプ地とお別れとなりました。



▲キャンプといえばキャンプファイヤー！

短いキャンプ生活でしたが、運営スタッフの目には、参加小中学生の顔が、しっかりとした面持ちに映りました。また、足立区や少連協の事業がありましたら、子ども達には是非、参加して欲しいと願っております。



## 参加した子どもたちに聞きました!

- 🍀 かまどが難しかったけど楽しかった。
- 🍀 初めましての人とも友達になれて良かった。
- 🍀 みんなと協力できた。料理づくりが楽しかった。
- 🍀 色々な体験ができ、友達がたくさんできた。
- 🍀 友達とは何か?が分かった。
- 🍀 かまどで火をおこせるようになった。
- 🍀 テントで過ごす大変さを知った。
- 🍀 色々な体験ができた。
- 🍀 キャンプファイヤー（おやしギャグ）が楽しかった。
- 🍀 追ハイが楽しかった。
- 🍀 テントの中でのお話が楽しかった。
- 🍀 キャンプファイヤー（もぐら、手つなぎ）が楽しかった。
- 🍀 宝探しで、金の松ぼっくりをみつけられた。
- 🍀 思った以上に、かまど体験をしたので、キャンプ感を感じた。



- 🍀 霧がすごくて涼しかった。
- 🍀 キャンプファイヤーで、UFOが楽しかった。
- 🍀 経験することが、初めてのことはかりだった。
- 🍀 みんなと協力するのが楽しかった。
- 🍀 ご飯が美味しかった。
- 🍀 みんなと仲良くなれた。
- 🍀 家と違って楽しかった。
- 🍀 テントの立て方が分かった。
- 🍀 キャンプの楽しさが分かった。
- 🍀 色々な自然に触れあえた。
- 🍀 料理に時間がかかった。
- 🍀 テント泊!楽しかった。
- 🍀 国旗挙げはレア経験だった。
- 🍀 クラフトが楽しかった。



## チューター・カウンセラーから一言!

- 🍀 すごく楽しかった。
- 🍀 カウンセラー側は、責任が重くなって大変だった。でも、仲間や班のメンバーと協力して過ごした3日間は、本当に学ぶことが多くとても楽しかった。
- 🍀 初めてのカウンセラーで、4年ぶりのテント泊をするキャンプだったけど、楽しんでキャンプを運営できた。
- 🍀 班で行動するとき、みんなが違う行動をしていて大変だった。
- 🍀 久しぶりのカウンセラーで、初心にかえれた。
- 🍀 全員をまとめることが、研修会以上に大変だった。
- 🍀 班員がご飯を食べるのに全力で、残すことが1回もなかった。
- 🍀 みんなが話を聞いてくれなくて大変だった。寝るまで一緒なのも大変だった。
- 🍀 ご飯を作るのが楽しかった。朝のつどいの司会が緊張した。
- 🍀 班員に3日間楽しんでもらえて嬉しかった。
- 🍀 3日めの朝ご飯を早く作れた。「いただきます」が気に入ってくれた。備品をなくすことなく3日間過ごせた。
- 🍀 とてもいい経験ができた。
- 🍀 少し、周りの班の行動に上手く合わせられなかったが、班のみんなの行動力がよく、指示に従ってくれて助かった。
- 🍀 説明が思うようにいなくて難しかったけど伝えることができ、みんなと遊んだりできて楽しかった。
- 🍀 鋸南と違って寝かしつけが大変だった。





▲これからウォークラリーに出発 (江北地少協)

5月第二日曜日、毎年恒例のウォークラリーを空模様が気になるなか開催しました。

当日は小学生、ボランティアの中学生、地域の小・中学校の校長・副校長・来賓の方々121名の参加がありました。

五色堤公園をグループごとに出發して、江北橋から鹿浜橋を往復しながら土手から見えるものや周りにある物などを観察して進み、ゴール地点で問題用紙を貰いグループ全員でその回答を提出した時点のタイムで順位を決めます。グループは小学生5〜6人とボラン

# ウォークラリー

江北地少協 岩井 晴美

ティアの女子中学生3〜4人でくまれています。男子中学生には、土手の上で安全に歩けるよう見守りをしてもらいました。待ち時間は派遣してもらったジュニアリーダーにゲームなどをしてもらい全員怪我もなく無事終えることが出来ました。



# バスハイク

扇地少協会長 鈴木 春男

令和5年3月11日、児童21名、高校生リーダー1名、役員13名、合計35名で埼玉県羽生市羽生水郷公園さいたま水族館、栃木県佐野市立葛生化石館を見学しました。

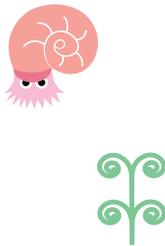
淡水魚だけの水族館ですがチョウザメやオオサンショウウオ、イワナ等珍し

い魚を観察する事が出来ました。昔は足立区でもどこにでもいたミヤコタナゴやメダカが希少生物になっていました。よく見かけるのは大陸タナゴや外国産のメダカだそうです。環境の変化で日本の固有種が減っている事を学習しました。

公園広場では、高校生リーダーの指導の下ドッジビーの練習を行いました。



▲お魚たくさん見られたかな? (扇地少協)



葛生化石館では、日本の成り立ちを学習しました。日本がかつては海の底だったが隆起して高山になり、風雨により浸食されて現在の地形になった事が発掘された化石で証明されています。アンモナイトや貝の化石が深い地層から見つかり、象の化石が浅い地層から発掘され関東地方に住んでいた事がわかりました。

# 編集後記



今年度は、四年ぶりに御殿場でのキャンプが行われました。少しずつ、これまで行ってきた行事ができるようになり、子どもたちの笑顔に接する機会が増えました。嬉しい限りです。これからも、子どもたちの活躍、それを見守る大人たちの姿を伝えていきます。

70号を発行するにあたり、ご協力をいただいた皆様ありがとうございました。

